

■目黒区説明からの質疑

(1)に関連して、企画部の関わり方としては、放課後子ども総合計画に関してなのか、どの部分で関わってくることになるのか

→ そもそもスタートが新しい取り組みだったので、全体調整をやる部分で。子育て支援と教育ということだったので、企画部にメンバーに入ってもらって調整を行ってもらったということ。

学校施設を借りる事は難しく、小学校に通う児童の数も増え、場所もなく、普通教室、普通、教室の確保も難しくなどがあり、また学校施設を大規模に使うのは初めてだったので、企画部も入って検討が始まった。

国における放課後子ども総合プランは、ランラン広場と学校内、学童と地域の型運営の子供教室があり、教育とも協力しながらやっている。企画は当初はいろいろ参加していたが、今現在はそこまでの関わりは無い。

(3)に関連して

→ コミュニティスクールは教育委員会事務局、現在のところ関連はない。各小学校区放課後子ども総合プラン運営委員会に学校長や地域の方が入っているので、そちらで充足していると考えている。コミュニティスクールは令和7年度から教育委員会が所管。今後は、負担面を考慮して統合も検討に入るかと考える。

(4)に関連して

区の常勤職員であるが人事異動は？

→ ある。元々児童館の館長の経験があるため、異動してコーディネータをしてもらっている。児童館も学童の担当も現場を積んできたのでつながっている。学童クラブは直営と、民営、社会福祉が一部入っているが主として民間

(5)に関連して

→ 定期的な巡回とは、なんらかの事業があるときや保護者会などがあるとき、機会をとらえて行っている。

(6)に関連して

屋内運動場が別にある場合の課題などは？

ランラン→ 一番は子どもの導線、学校と調整して決めているのが現状。21校で実施しているが様々な状況がある。

学童→ 比較的使えている。中には規模が小さく生徒数が多いところでは、家庭科室を使っている場合は授業の都合や、多学年との関係で使えない場合もある。運動会などで準備の場

合、学校内に学童の場所がなくなる場合があるが、そのときは学校外にある児童館などを利用して行っている場合もある。学校の規模などにより年間に何日かあることが課題であり、なかなか解決ができづらいところもある。セキュリティの切り分けは、セコムカードを渡してもらって行う場合も。校舎全体であればそれで、一部のところが使えるときはそこだけ介助して使うなどの工夫をしている。空間でかかっているところと掛かっていない場合もあり、そこは子どもに説明をしている。

（７）に関連して

民間の立場から事業は魅力的か？

→ 東急は学童とセットでやっていることが多い。目黒区では、小学校の中で30人定員になると、児童館の学童は徒歩15分くらいのところに行くことを、1～2年生ができるか、難しいと考える。学童クラブ使っている子でも、5時までの利用で放課後じゅうぶん過ごせるであるとか、1時間は留守番できるという子もいて、2年生に上がったときにランランひろばで過ごすという選択肢も増えるので、利用者にはメリットかと考える。

学童だけだと育成室だけになるが、ランランと合わせることで、校庭や屋内運動場なども使えるようになり、活動場所がかなり広がるので、ふたつができることはメリットとして大きい。

（８）に関連して

→ ほとんどの区が全児童対策で行っている。なかなかこどもが遊ぶ場がなく、学校が遊ぶ場になるかと考える。

（９）に関連して

→ 学校内に学童を整備するであるとか等の場合は、学校施設計画課や施設課と協議を行って進めている。

（１０）に関連して

発達障がいなどで境界の子は？

ランラン→ コーディネーターが、配慮を必要とする子供の情報を学校と共有して確認しながら進めている。それを事業者と連携。

■その他の質問

（１）東急で学童とランランひろばを同時に運営しているが、学童保育は指導員の条件があるが、ランランひろばの職員については？

→ 基本的には区の求める条件で採用している。全体の雇用で行っている。

ランラン広場のような事業に対して資格が必要でない自治体もあれば、目黒区のように資格が必要なところもある。そのような状況を踏まえて振り分けているという状況。資格を持

った人物として採用したければ問題ないが、資格を持っていないが人物として優秀な場合はどこに配属するのか、配属していても資格を取らしてくれる自治体もあるので、そういうことも含めて、どこに配属できるのかを考えて、基本的には学童保育クラブの職員として採用すると言う事

(2) 子供、子育て計画ではなく、放課後の子供総合プランと別立てでやる方が良いのではないかと考えているが、放課後子ども対策が存在しているので意見が聞きたい。計画を別立てにしたほうが良いのではないか。検討会議やプロジェクトチームと言う形で、指導員の方や事業者も入ってもらって居場所の検討したほうが良いと考えるが、別立てにされていることについて

→ 令和元年度から放課後、子ども対策推進課を設置して進めている。総合計画に含めずに、個別計画にしたのが大きかった。かつ個別に課が置かれているのは大きかった。